

連載

Turbo HAMLOGの 部屋

Turbo HAMLOG開発者

JG1MOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第20回

HAMLOGの表示メニュー

前号に続き、Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOGと略します) の[表示(V)]メニューについてご紹介します。

表示(V)メニューから

図1は、HAMLOGのメインウィンドウから[表示(V)]メニューを開いた状況です。

この中から前号に引き続いて解説します。

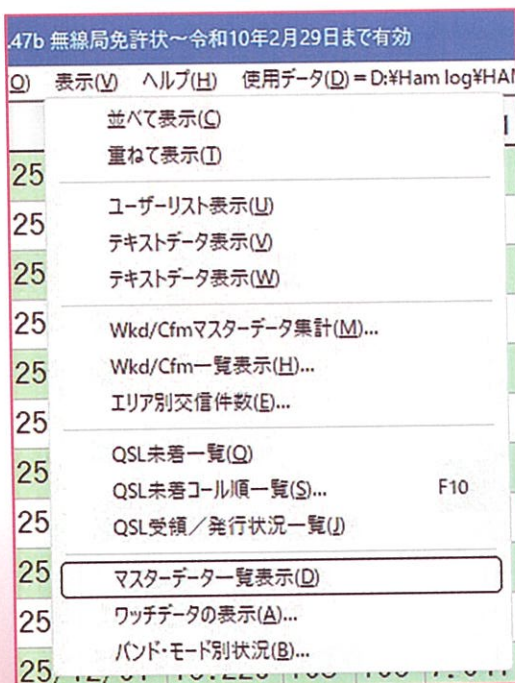


図1 HAMLOGの表示メニュー

マスターデータ一覧表示(D)

マスターデータ (HAMLOG.MST ファイル) の内容を一覧表示します。

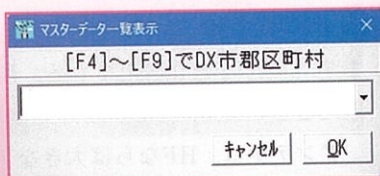
図2は、[表示(V)]メニューから[マスターデータ一覧表示(D)]をクリックして表示された、JCCナンバー等を入力するウィンドウです。

図2の状態のままF4～F9キーを押すと、それぞれDX、市、郡、区、町、村の一覧を表示します。

図2にJCCナンバー等を1文字以上入れてF4～F9キーを押すと、それぞれ該当するDX、市、郡、区、町、村の一覧を表示します。Enterキーを押すと、マスターデータのレコード番号順(市郡区町村が混在)で表示します。

図3は、図2のウィンドウに"14"と入れてF5キーを押した状態で、茨城県の市の一覧が表示されています。消滅した市にはアスタリスクが表示されています。

図2 マスターデータ (HAMLOG.MST ファイル) から市郡等を検索するウィンドウ



No	Code	Q T H	Flag	1.	3.	7	10	14	18	21	24	28	50	14	43	12	24	56	SA	緯度・経度
1594	1401	茨城県水戸市	4み1		C	C							C	C	C					N36, 21, 45 E140,
1628	1402	茨城県日立市	4ひ1		C	C							C	C	C					N36, 35, 45 E140,
1629	1403	茨城県土浦市	4つ1		C	C	C						C	C	C					N36, 04, 07 E140,
1630	1404	茨城県古河市	4こ1		C	C				W			C	C	C					N36, 10, 54 E139,
1631	1405	茨城県石岡市	4い1		C	C							C	C	C	C				N36, 11, 16 E140,
1632	1406	茨城県下館市	*05/3	4し1		C							C	C						N36, 18, 14 E139,

図3 マスターデータ中の茨城県の市の一覧

ここで W や C と表示されているデータは、それぞれバンドごとに Wkd/Cfm された地域です。

右クリックメニューについて

図4は、2エリアの"区"を表示させて、右クリックメニューを表示させた状況です。

["DX"の一覧(D)] ~
["村"の一覧(B)]

それぞれ DX, 市, 郡, 区, 町, 村の一覧に切り替わります。

【レコード番号順(R)】

マスターデータをレコード番号順に表示します。市郡区町村が混在した表示となります。

データの編集(H)

図5のウィンドウが表示され、マスターデータを編集することができます。マスターデータ一覧上で編集したい市郡等をダブルクリックしても、図5のウィンドウが表示されます。

図5は、"東京都多摩市"を編集している状態で、マスターデータ(HAMLOG.MST ファイル)に登録されている市郡区町村 DX を個別に追加、訂正、削除を行うことができます。

これは、[オプション(O)]メニューから[データの保守(D)]⇒[マスターデータの編集(M)]と実行したものと同じです。

図6は、マスターデータ編集ウィンドウの右クリックメニューです。[その他]ボタンをクリックしてもこのメニューが表示され、メニューのと通りの処理を行うことが

No	Code	Q T H	Flag	1.	3.	7
1938	180101	静岡県葵区	6あ2		C	C
1939	180102	静岡市駿河区				
1940	180103	静岡市清水区				
1968	180201	浜松市中区	*23,			
1969	180202	浜松市東区	*23,			
1970	180203	浜松市西区	*23,			
1971	180204	浜松市南区	*23,			
1972	180205	浜松市北区	*23,			
1973	180206	浜松市浜北区	*23,			
1974	180207	浜松市天竜区				

図4 マスターデータ一覧上で右クリックメニューを表示させた状況

No	Code	Q T H	Flag	1.	3.	7	10	14	18
1201	1021	東京都東大和市							
1202	1022	東京都清瀬市							
1203	1023	東京都東久留米							
1204	1024	東京都武蔵村山							
1205	1025	東京都多摩市							
1206	1026	東京都稲城市							
1207	1027	東京都秋川市							
1208	1028	東京都羽村市							
1209	1029	東京都あきる野							
1210	1030	東京都西東京市							
1211	1051	東京都千代田区							

図5 右クリックメニューからマスターデータの編集ウィンドウを表示させた状況

No	Code	Q T H	Flag	1.	3.	7	10	14	18
1201	1021	東京都東大和市	4ひ1		C	C			
1202	1022	東京都清瀬市							
1203	1023	東京都東久留米							
1204	1024	東京都武蔵村山							
1205	1025	東京都多摩市							
1206	1026	東京都稲城市							
1207	1027	東京都秋川市							
1208	1028	東京都羽村市							
1209	1029	東京都あきる野							
1210	1030	東京都西東京市							
1211	1051	東京都千代田区							

図6 マスターデータの編集ウィンドウの右クリックメニュー

できます。

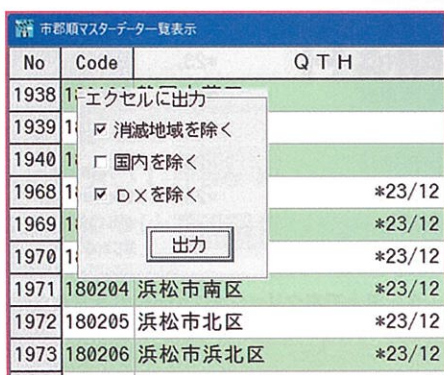
マスターデータの編集を必要とする状況は少ないと思います。なお、マスターデータの編集については、本誌 2025 年 11 月号でも解説しました。

エクセルに出力 (E)

図 7 は、図 4 の右クリックメニューの「エクセルに出力 (E)」をクリックして表示された状況です。

エクセルに出力するにあたり、消滅地域や国内または DX を除いて出力することができます。

マスターデータはデータ量が多いので、エクセルに吐き出すにはちょっと時間がかかります。



No	Code	QTH
1938	1	エクセルに出力
1939	1	☒ 消滅地域を除く
1940	1	☐ 国内を除く
1968	1	☒ DXを除く
1969	1	
1970	1	
1971	180204	浜松市南区
1972	180205	浜松市北区
1973	180206	浜松市浜北区

図 7 右クリックメニューからマスターデータをエクセルに出力する状況

Wkd/Cfm 集計 (W)

図 1 (p.152) の「表示 (V)」メニューから実行した「Wkd/Cfm マスターデータ集計 (M)」のウィンドウと同じものです。

図 3 (p.153) のように、「マスターデータ一覧表示」に表示されている W や C をまとめて書き込むには、「Wkd/Cfm マスターデータ集計」を実行します。

「Wkd/Cfm マスターデータ集計」については、2025 年 12 月号で解説しました。

ワッチデータの表示 (A)

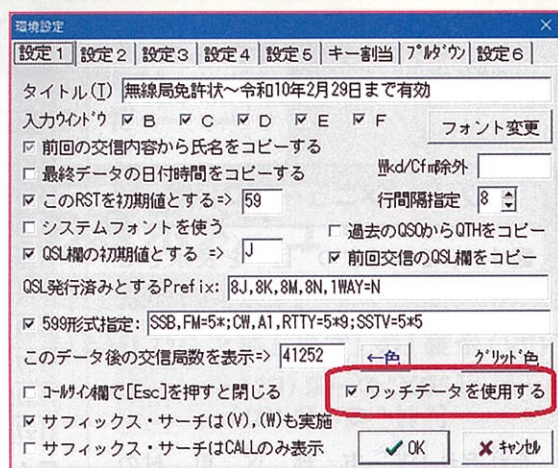
QSO データではなく、ワッチしたデータを一覧表示します。

ワッチデータには、交信には至らなかったようなデータやアイボールしたときの概要、名刺の内容などを登録しておき、交

信時に再利用するなどの使い方ができます。

図 8 は、「表示 (V)」メニューから表示させたワッチデータのウィンドウで、筆者がアイボールした局や、コールしようと思ってとりあえずワッチデータに登録しておいた内容などです。

ワッチデータを使うためには



環境設定

設定 1 設定 2 設定 3 設定 4 設定 5 キー割当 7°分'秒 設定 6

タイトル (I) 無線局免許状～令和10年2月29日まで有効

入力ウィンドウ ☒ B ☒ C ☒ D ☒ E ☒ F フォント変更

☒ 前回の交信内容から氏名をコピーする

☒ 最終データの日付時間をコピーする

☒ この RST を初期値とする => 59 行間隔指定 8

☐ システムフォントを使う ☐ 過去の QSO から QTH をコピー

☒ QSL 欄の初期値とする => J ☒ 前回の交信の QSL 欄をコピー

QSL 発行済みとする Prefix: 8J, 8K, 8M, 8N, 1W, 1Y, 1Z

☒ 599 形式指定: SSB, FM=5*; CW, A1, RTTY=5*9; SSTV=5*5

このデータ後の交信局数を表示 => 41252 ←色 クリット'色

☐ コピー欄で [Esc] を押すと閉じる ☒ ワッチデータを使用する

☒ サフィックス・サーチは (V), (W) も実施

☐ サフィックス・サーチは CALL のみ表示

OK キャンセル

図 9 環境設定の「設定 1」タブ。「ワッチデータを使用する」にレ点を入れた状況

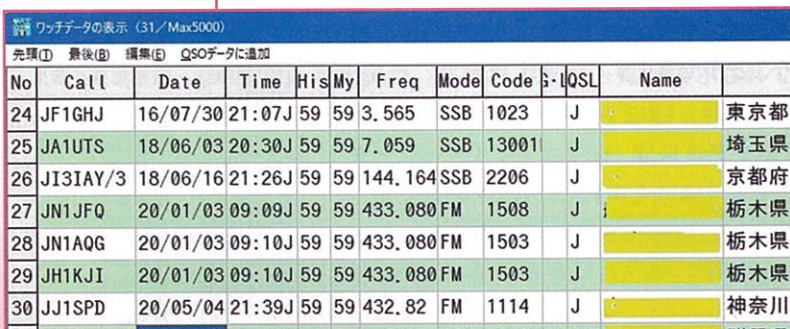
図 9 は、環境設定の「設定 1」タブです。

ワッチデータを使うには、環境設定の「設定 1」タブの右下にある「ワッチデータを使用する」にレ点を入れてから HAMLOG を再起動する必要があります。

ワッチデータは、QSO データと同様に入力ウィンドウから登録します。

図 10 は、入力ウィンドウの右クリックメニューで、この中に「ワッチデータへの登録 (W)」があります。

図 10 の右クリックメニューでは、「ワッチデータへの登録 (W)」にはショートカットキーとして Ctrl + W キーが割り当てられています。



No	Call	Date	Time	His	My	Freq	Mode	Code	S	QSL	Name
24	JF1GHJ	16/07/30	21:07J	59	59	3.565	SSB	1023	J		東京都
25	JA1UTS	18/06/03	20:30J	59	59	7.059	SSB	13001	J		埼玉県
26	J13IAY/3	18/06/16	21:26J	59	59	144.164	SSB	2206	J		京都府
27	JN1JFQ	20/01/03	09:09J	59	59	433.080	FM	1508	J		栃木県
28	JN1AQG	20/01/03	09:10J	59	59	433.080	FM	1503	J		栃木県
29	JH1KJI	20/01/03	09:10J	59	59	433.080	FM	1503	J		栃木県
30	JJ1SPD	20/05/04	21:39J	59	59	432.82	FM	1114	J		神奈川県

図 8 ワッチデータを表示させた状況

ショートカットキーは、環境設定の[キー割当]タブで設定することができます。

ショートカットキーの設定は、本誌 2024 年 12 月号で解説しました。

図 11 は、ワッチデータとして保存するときの確認メッセージです。

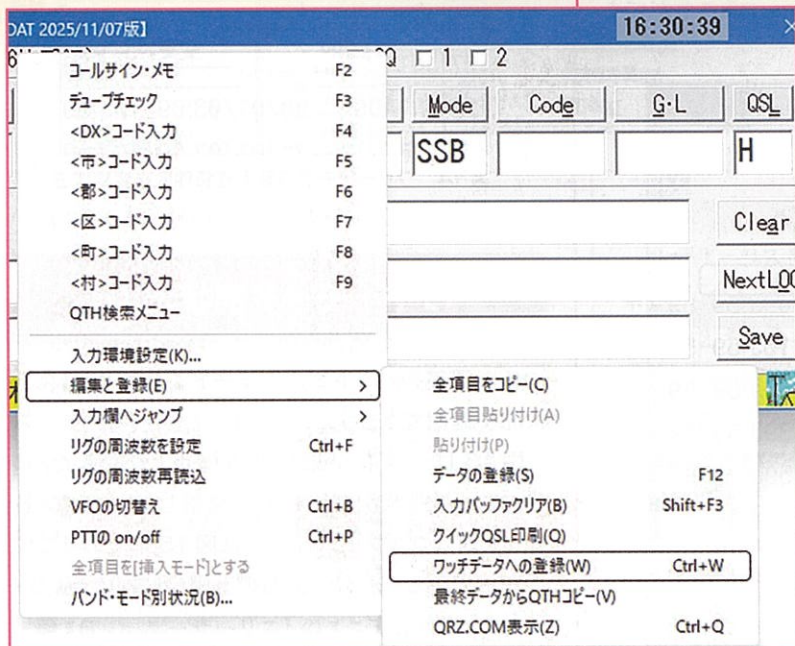


図 10 入力ウィンドウの右クリックメニューにある「ワッチデータへの登録 (W)」

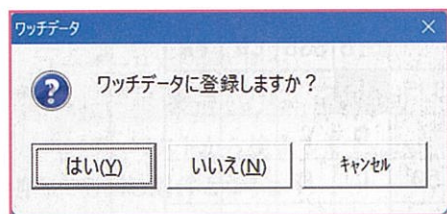


図 11 ワッチデータとして保存するときの確認メッセージ

ワッチデータの仕様について

ワッチデータとして保存されるデータは Hamlog.
wdt ファイルで、QSO データと同じフォルダに保存
されます。

ワッチデータは、初期設定では 2,000 件登録可能で、2,000 を越えると古いものから消されていきます。

ワッチデータのファイル形式は、カンマ区切りのいわゆる CSV ファイルです。

コールサインを入力して ヒットさせてみる

入力ウィンドウでコールサインを入力すると過去の
の発信履歴が表示されますが、この中にワッチ
データも表示されます。

図12は、入力ウィンドウに筆者のフレンド局のコールサイン(7M1SZJ局)を入れて表示された交信履歴で、一番下の行がワッチデータです。

ワッチデータにヒットすると
 交信履歴が赤い文字で表示さ
 れ、ナンバーは#####と表
 示されます。

ワッチデータ中に同一コールサインが複数ある場合は、最新のデータが表示されます。

No	Call	Date	Time	His	My	Freq	Mode	Code
36913	7M1SZJ/1	24/01/22	11:17J	59	59	7.048	SSB	1408
38373	7M1SZJ/1	24/05/21	06:54J	59	59	7.060	SSB	1331
44495	7M1SZJ/1	25/06/10	09:13J	59	59	7.054	SSB	1208
46813	7M1SZJ/1	25/11/13	09:17J	59	59	7.060	SSB	1404
47314	7M1SZJ/1	25/12/06	07:01J	59	59	7.048	SSB	1435
47329	7M1SZJ/1	25/12/06	10:46J	59	59	7.070	SSB	1435
#####	7M1SZJ/1	25/12/07	08:46J	59	59	7.063	SSB	14005A

図 12 入力ウィンドウでコールサインを入力して表示された交信履歴。
一番下の行がワッチデータ

ワッチデータを再利用するには

ワッチデータ一覧で再利用したい局をダブルクリック、またはメニューの「QSO データに追加」をクリックすると、選択されている行のデータが入力ウィンドウに取り込まれます。

ワッチデータのメニューについて

図 13 (p.156) は、ワッチデータのメニューです。

先頭 (T) 最後 (B)

ワッチデータを先頭から、最後から表示します。

編集 (E) ⇒ 修正 (E)

ワッチデータを修正することができます。

図 13 の [修正 (E)] をクリックすると、ワッチデータが読み込まれた [データの表示 & 修正] ウィンドウが表示され、ワッチデータを修正することができます。

ワッチデータの表示 (32/Max5000)					
先頭(T) 最後(B) 編集(E) QSOデータに追加					
No	Call	修正(E)...	My		
25	JA1UTS	削除(D)	59	7	
26	JI3IAY/	降順に表示させる	59	1	
27	JN1JFQ	最大登録件数の変更	59	4	
28	JN1AQG	20/01/03 09:10J	59	4	
29	JH1KJI	20/01/03 09:10J	59	4	
30	JJ1SPD	20/05/04 21:39J	59	4	
31	JF1FRY	20/12/31 11:59J	-	7	
32	7M1SZJ	25/12/08 11:46J	59	7	

図 13 ワッチデータの [編集 (E)] メニューを開いた状況

編集 (E) ⇒ 削除 (D)

ワッチデータを削除することができます。

[削除 (D)] をクリックすると、選択されている行のワッチデータが削除されます。

編集 (E) ⇒ 降順に表示させる

ワッチデータの表示を昇順 / 降順に変えることができます。

[降順に表示させる] をクリックすると、ワッチデータが降順に表示されてメニューにレ点が付きます。もう一度クリックすると元に戻ります。

編集 (E) ⇒ 最大登録件数の変更

ワッチデータへ登録できる上限を増やすことができます。

図 14 は、[最大登録件数の変更] をクリックして最大登録件数を変更する状況で、最低が 1,000 件、最大は 10,000 件です。

処理の遅い (古い) パソコンでは、件数が多いとワッチデータの検索が少し遅くなるかもしれません。

QSO データに追加

選択されている行のデータが入力ウィンドウに取

り込まれ、QSO データとして再利用することができます。

ワッチデータの表示 (32/Max5000)				
先頭(T) 最後(B) 編集(E) QSOデータに追加				
No	Call	Date	Time	Hi
25	JA1UTS	18/06/03	20:30J	59
26	JI3			59
27	JN1	5000	変更	59
28	JN1AQG	20/01/03	09:10J	59
29	JH1KJI	20/01/03	09:10J	59

図 14 ワッチデータの最大登録件数を変更する状況

バンド・モード別状況 (B)

各市郡等のバンドごと、モードごとの Wkd/Cfm 状況が確認できます。

図 15 は、筆者が東京都青梅市と交信したバンド・モード別状況で、121 件交信していてバンド・モード別のコンファーム状況は図 15 のとおりです。

表示できるモードの種類の上限 (列数) は 99 モードまでとなります。

この機能は、本誌 2024 年 11 月号で解説しましたので、割愛します。

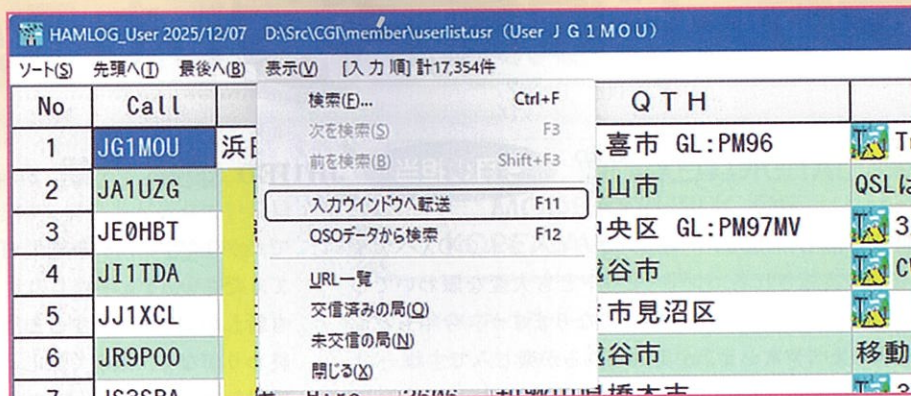
1006 東京都青梅市				
	FT8	SSB	CW	FM
3.5	C			
7	C	C		
50	C	C	C	
144	C	C	C	
430	C	C		C
該当件数: 121件				

図 15 筆者の東京都青梅市とのバンド、モード別の交信状況

ユーザーリスト表示 (U)

HAMLOG ユーザーリストを表示します。この機能は、HAMLOG ユーザーリスト登録局のみ使用可能です。

図 16 ユーザーリストのウィンドウを表示させ、[表示(V)]メニューを開いた状況



2026年1月4日現在、HAMLOG ユーザーリストには 17,358 局が登録されています。

図 16 は、ユーザーリストのウィンドウを表示させ、[表示(V)]メニューを開いた状況です。

右側にテントとアンテナのアイコンが表示されている局は、HAMLOG E-Mail QSL (通称 hQSL) が使える局です。

ユーザーリストのメニューについて

図 16 の、ユーザーリストのメニューについてです。

ソート(S)

クリックするたびに入力順・コールサイン順・JCC/JCG コード順に表示が変わります。

先頭へ(T) 最後へ(B)

ユーザーリストを先頭から、最後から表示します。

表示(V) ⇒ 検索(F)

ユーザーリストから検索します。Ctrl + F キーを押しても同じ動作となります。

コールサイン順のときはコールサインで検索し、入力順や JCC/JCG コード順のときは部分文字列で検索します。

検索に成功すると、メニューの [次を検索(S)], [前を検索(B)] が有効になり、次々に検索していくことができます。

表示(V) ⇒ 入力ウィンドウへ転送

ユーザーリストから入力ウィンドウへコールサインを転送します。F11 キーや Enter キーを押しても同じ動作となります。

QSO データから検索

ユーザーリストのコールサインで QSO データを検索し、[データの表示 & 修正] ウィンドウを表示します。F12 キーを押しても同じ動作となります。

URL 一覧

ユーザーリストにホームページ URL が書き込んである局だけの表示となります。

交信済みの局(Q)

QSO データ中に存在する局だけの表示となります。

未交信の局(N)

QSO データに存在しない局だけの表示となります。

ユーザーリスト記載のホームページを表示してみる

ホームページ URL が書いてある局をダブルクリックすると、ブラウザが起動してそのホームページを表示します。

テキストデータ表示(V)

ご自身で作成したテキストデータ (登録済みデータ) を組み込んである場合は、ここで表示させることができます。

操作方法は、HAMLOG ユーザーリストと同様です。

テキストデータの詳細については、ヘルプを参照ください。

それでは、次号に続きます。

©©